

令和6年度 授業改善推進プラン（中学校・学年用）

第三中学校 第3学年

1 福生市学力・学習状況調査の結果				
	分類	意識調査の質問項目	学年	全国
学びに向かう力	感情のコントロール	8 家の人は自分のことを気にかけてくれていると思う。	93.0%	94.7%
		53 自分には、先生や友だちからほめられるような得意なことがある。	67.6%	67.9%
		54 自分の力をできるだけ伸ばしたいと思う。	95.8%	94.2%
	目標の達成	18 普段から「不思議だな」、「なぜだろう」と感じることもある。	80.3%	75.2%
		26 ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある。	95.8%	90.6%
	他者との協働	121 私は、友だちをばかにしたりからかったりせず、一人ひとりの心や命を大切にしている。	83.1%	89.6%
	学力と関係が深い質問	28 テストで間違えた問題は、もう一度やり直している。	39.4%	53.7%
		36 目標に向けて、普段からこつこつ学習している。	43.7%	50.3%
		37 わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。	62.9%	66.0%
観点・領域名	学力調査の分析 ○成果 ▲課題			
国語	話す力・聞く力	○全国平均正答率を2.5ポイント上回り、(発表の説明を選ぶ)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を4.4ポイント下回り、(司会者の議論の進め方を選ぶ)設問に課題がある。		
	書く力	▲全国平均正答率を10.9ポイント下回り、(意見文の下書きの構成について正しい説明を選ぶ)設問に課題がある。		
	読む力	○全国平均正答率を3.2ポイント上回り、(登場人物の心情について書き抜く)設問に成果がある。 ▲全国平均正答率を8.4ポイント下回り、(登場人物の関係について正しく説明しているものを選ぶ)設問に課題がある。		
	言語についての知識・理解・技能	▲全国平均正答率を16.4ポイント下回り、(漢字の書き)設問に課題がある。		
数学	数と式	▲全国平均正答率を21.4ポイント下回り、(文字式の加減の計算をする)設問に課題がある。		
	図形	▲全国平均正答率を14.0ポイント下回り、(等積変形を利用して適切な点のとり方を答える)設問に課題がある。		
	関数	▲全国平均正答率を16.6ポイント下回り、(2直線の交点を答える)設問に課題がある。		
	データの活用	▲全国平均正答率を8.8ポイント下回り、(確率を答える)設問に課題がある。		
英語	聞くこと	○全国平均正答率を3.2ポイント上回り、(英文の必要な情報の読み取り)設問に成果がある。		
	読むこと	○全国平均正答率を2.6ポイント上回り、(英文から必要な情報の読み取り)設問に成果がある。		
	書くこと	▲全国平均正答率を2.3ポイント下回り、(語句や英文の正確な記述)設問に課題がある。		
2 生徒の実態		3 生徒の実態を踏まえた授業改善の取組		
【様式2に記載】		【様式2に記載】		
4 ミライシードとの連携機能を活用した取組				
個別ドリルの実施状況		令和6年8月末時点で完了している生徒	70.5%	(55人/78人中)
確認テストの実施状況		令和6年8月末時点で完了している生徒	21.8%	(17人/78人中)

令和6年度 学授業改善推進プラン（中学校・教科担任用）

第三中学校 第3学年

国語科	教科担任 綾部恭彦
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果から、漢字、文法等、知識事項を問う問題において全国平均を大きく下回る結果となった。特に、漢字の読み書きについては全国平均と10点以上の開きがある。 ・意識調査からは、テストの解き直しや授業の復習、ノートのみまとめ直し等の項目が低く、くりかえし取り組むことで学力の定着を図ろうとする意識が不足している。地道に努力することを厭う傾向がみられる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地道に努力することを厭う傾向があり、それがそのまま実態に表れているので、特に漢字や文法等の知識事項において、繰り返し取り組ませていくようにする。 ・漢字の読み書きについては、副教材のドリルに取り組ませているので、点検や確認テストの実施を増やし、意識付けをしながら定着させていく。 ・文法は随時問題演習に取り組ませ、復習しながら定着を図る。
社会科	教科担任 河野 伸二郎
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して意欲的に取り組む生徒が多い。 ・基礎が定着しにくい生徒がいる。 ・自分の考えを説明することが苦手な生徒がいる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストで確認する機会を設ける。 ・学習のまとめの際に、さまざまな視点で多面的に考察できるように、ヒントとなる語句を与えて記入させる。また、習熟度に応じて、まとめる方法を制限することで、表現力を高めていく。 ・導入時に、ICT 機器などを活用し、視覚的に節の探求課題や学習課題に疑問をもたせるように工夫する。
数学科	教科担任 関 隆史
生徒の実態	真面目に授業に取り組んでいる生徒が多いが、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない生徒が散見される。また、既習内容を使って理由を答えたり自分の考えを述べたりすることに苦手意識をもっている生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるために、授業後に宿題を出して既習内容を繰り返し振り返れるようにしていく。更に間違ったところは何度も解き直す指導をしていく。また、授業の中で成り立つ理由を説明や答えを出した過程を説明する機会を意識的につくっていく。

理科	教科担任 長友 謙治
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査では、学習継続力、授業を受ける姿勢が全国の結果と比べると、低めに出ている。 ・実験結果からわかることなど、文章で説明するのが苦手である。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークなどの基本的なものを少しずつ繰り返すことで、スモールステップでの成功体験を積み重ねさせることで、学習継続力を身に付けさせる。 ・教え合い活動などを通じて、授業を受ける姿勢の改善をはかる。 ・実験の考察や説明問題などの、文章の書き方をパターン化させて、練習を繰り返すことで、書き方を身に付けさせる。
音楽科	教科担任 田中 悦子
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・厚みのある歌声で歌うことができる。合唱のパート練習では、パートによって完成度が違ってしまふ。特に男声パートはフォローが必要。 ・ICTを使用した合唱練習では、上手に活用し成果を上げている。 ・提出物を出せない生徒がクラスに2，3人はいる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・練習の方法を工夫する。リーダーを中心に協働学習できるよう目指す。 ・プリント作成ではスモールステップで記入できるものを使用し、全員提出をめざす。
美術科	教科担任 大倉 知恵
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組み、お互いにアドバイスすることができている。 ・自分で考えを練っていく力が付いてきている生徒もいる。 ・制作を集中して取り組むことができている。 ・発想を広げられる生徒が増えてきた。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で鑑賞やICTの活用をし、イメージしやすいようにさせていく。 ・色々なアドバイスの中から自分で考えを練って、作品に反映させていく。 ・進行状況などを把握させるために、個々に声をかけながら確認する。

保健体育科	教科担任 安田 裕昭
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的に取り組むことができる生徒が多い。 ・運動を苦手としている生徒の中には、地道な練習を避けようとする生徒もいる。 ・自分なりの工夫をして、課題を解決していこうとする生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・運動な苦手な生徒も積極的に授業に参加できるよう、スモールステップの課題提示をして、「できた」という達成感を感じられる生徒がより多くなるようにする。 ・教師が練習方法を提示する場面と、自分で練習方法を考えさせる場面とをバランスよく行い、後者の割合を徐々に増やしていく。
技術科	教科担任 久保田 翔子
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に積極的に取り組む。とくに製作作業においては、与えられた資料等を活用し、自分なりに思考を重ねたり、他者と協働したりして、楽しそうに取り組んでいる。 ・集中してインプットすることができるが、それらの情報や経験を活用して見通しをもって作業を行うことを苦手とする生徒が多い。 ・アウトプットにおいては、作業時や、講義を受けた後のレポート、作業を終えてのレポートなどで、学習したことを発揮・まとめることを苦手とする生徒は減少し、時間をかけて丁寧に表現する生徒が多い。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をイメージでとらえられるように、写真や動画での説明を主とする。 ・学習用 iPad を活用し、カラー写真資料や動画配信を行い、生徒が自分の手元で何度でも既習事項を確認できるようにする。 ・グループ編成を工夫する。他者と協働しながら作業を進められるように、製作品が同じ者同士でグループを編成する。 ・毎時間の振り返りや单元ごとのレポート作成の時間を十分に確保する。 ・達成感や充実感をもたせるため、明確で全員が達成できるような目標を設定する。
家庭科	教科担任 瀬尾 裕美
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に落ち着いて授業に取り組んでいる。 ・授業をよく聞いて、プリント等もしっかり記入し、授業内容をより深く理解しようという意欲がクラス全体に見られる。 ・実習では計画に沿って進め、各自工夫しながら取り組むことができる。
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々が今までに習得したことを生かし、より高度な知識と意識を身につけ、努力できるような目標を設定する。 ・作業手順が分かりやすいように、図や見本で示すようにする。 ・実習では、毎時間の振り返りで各自の進捗を確認できるようにする。 <p>また、それぞれの進捗や取り組みに合わせて、より良いものが製作できるよう指導する。</p>

英語科	教科担任 小林 真央 岩尾 京子 山内 正治
生徒の実態	<p>[聞くこと] 英文を聞いて内容を理解できる生徒がほとんどである。</p> <p>[読むこと] 生徒の多くは資料の読み取りができていないが、一部の生徒は語彙力が低く、既習単語でも意味を調べないと英文を読むことができていない。</p> <p>[話すこと (やり取り)] ペアでの言語活動に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>[話すこと (発表)] PowerPoint 等の資料を用いて調べた内容を話すことはできているが、一部の生徒は原稿をずっと見た状態であり発表態度の面で課題が残っている。</p> <p>[書くこと] 語彙力が低く、伝えたいことを正しく書くことができていない生徒が多い。また、主語と動詞を含めた完全形の英文で書くことに課題がある。</p>
生徒の実態を踏まえた授業改善の取組	<p>[聞くこと] 授業の進度に合わせて副教材を活用する。教科書の内容動画を字幕なしで見、ワークシートにメモとしてまとめることで聞く力を高める。</p> <p>[読むこと] 新出単語や本文の音読練習を繰り返し行う。</p> <p>[話すこと (やり取り)] ペアワークを多く取り入れて英語の発話量を増やす。</p> <p>[話すこと (発表)] 自分の考えを発表するパフォーマンステストを、クラスメイトの前や ALT と一対一で実施する。</p> <p>[書くこと] 毎回授業の終わりに書く活動を行い、その内容を ALT に添削してもらうことで自分の間違いに気づき、書く力を高める。</p>